

ANNUAL REPORT 2025

POW 
PROTECTOURWINTERS.JP

一般社団法人
PROTECT OUR WINTERS JAPAN
2025年度 年間活動報告



photo. Yuta Nakamura

ご挨拶

小松 吾郎

代表理事



Protect Our Winters Japan (POW JAPAN) をいつも応援してくれている皆様、新たに繋がってくれた皆様、本当にありがとうございます。活動が進み、またこうして一年の報告が書けることはとても恵まれたことです。一年を改めて振り返れば、今年も本当に多くの人に支えられ、大きく確実な一步を踏み出せた一年だったと実感します。

しかし（残念ながら）その一方で、気候の変化も確実に進み、ここ数年続いてきた異常な状況はもはやスタンダードになったのだと感じる一年でもありました。暑すぎる夏、極端な降雨・降雪、世界中で頻発する熱波や気候災害、大規模な山火事など、2025年の世界の年間平均気温は歴代3位となり（1位2024年、2位2023年）、国内でも観測史上最高気温が次々と更新されました。

世界情勢や政治に目を向けると、正直、戦後最悪の状況に陥っているという状態です。多くの資源やエネルギー、そして人々の関心も軍事に向けられ、気候危機問題、環境問題どころではない。という空気が広がっている気がします。

不安定な社会、待ったなしの変化が進む中で、私たちが持つべき希望とは一体なんでしょうか。私たちが向かおうとしている未来は一体どんな未来でしょうか。

そんな時代の中でこそ、私たちは改めて本当に大切なものに目を向けたい。私たちがこの世界で生きていくために、未来のために今やらなければならないこと、意識の変化を、しっかりと進めたい。そう感じます。

このレポートが、そんな時代の中の一つの「希望」となることを強く願います。

平和をつくり、環境を守り、問題を解決することが出来る未来は「閉ざされた社会」ではなく「開かれた社会」の上にしか成り立たない。私たちが願う未来と、そこへ向かうための行動が、一筋の光となれるよう進み続けます。どうかこれからも、私たちと共に、冬を守り、自然を守り、未来をつくる力として進み続けましょう。

ありがとうございます。

ご挨拶

高田 翔太郎

事務局長



活動報告をお読みいただき、ありがとうございます。

みなさまの想いや行動、そして温かいご支援に支えられ、POWの活動も8年目を迎えました。一歩一歩歩みを進めながら、みなさまとともに新たな景色を描き続けられていることを嬉しく思うとともに、心より感謝申し上げます。

昨年、このページでは、いま私たちが注力していることとして2つのテーマをお伝えしました。

一つは、自分たちの足元から現実の変化を生み出していくこと。

そのための取り組みの一つであるサステナブル・リゾート・アライアンス（SRA）は、加盟スキー場が49となり、持続可能なスキー場経営の輪が着実に広がっています。加盟スキー場では、それぞれの特色や地域性を活かした取り組みが進められています。また、その取り組みを応援するスキーヤー・スノーボーダーの声をスキー場に届けることや、パートナー企業との連携を通じて、業界全体でこの方向性を後押しする機運も高まっています。

もう一つは、フィールドで感じている危機感を、コミュニティの声として社会に届けていくこと。

この一年も重要な国政選挙が行われました。そのたびに、気候変動と政治のつながりを皆さんとともに考え、フィールドで感じている変化や危機感を自分たちの言葉にし、立候補者へ届けるアクションを続けてきました。また、スポーツや観光の分野でも気候変動に対する取り組みが進むよう、さまざまな働きかけを行ってきました。

足元から変化を生み出すこと。声を社会へ届け、社会を動かしていくこと。

このチャレンジに最も大きな力となるのが「コミュニティ」です。

共通の問題意識を持つ仲間たちが、日本各地、さまざまなフィールドで、それぞれの関心や得意分野を活かして活動し、その取り組みが有機的につながっていく。その力強さを私たちは何度も目の当たりにしてきました。そして、それこそがアウトドアピープルの持つ大きな強みだと信じています。

ご挨拶



今年度は、このコミュニティをさらに広げ、つながりを深め、さらなる成長を目指していく一年にしたいと考えています。

POWコミュニティの原動力であるアンバサダーが集うサミットを、10月に野沢温泉村で開催します。2022年以来のサミットの様子は、みなさまにもその熱量が伝わるよう発信していく予定です。また、仲間とともに学び、行動のヒントを共有するオンライン講座を8～11月にかけて開催します。実践の場である「クルー」では、オンライン・リアルの両方でミーティングやイベントを積極的に企画していきます。

さらに、スノーだけでなく、クライミングやサーフィンなど、さまざまなアウトドアスポーツとの連携も加速させていきます。

雪山を守るムーブメントは、川や海へとつながり、冬を守ることは春や夏、秋、そして、あらゆる自然環境、アウトドアフィールドを守ることにつながっている。そのことを、多くの仲間とともに発信していきたいと思います。

こうした挑戦を進める事務局には、新たな仲間が続々と加わり、より大きなチャレンジができる組織へと成長しています。また、事務局を支える存在である理事会も新たな体制となり、多様な経験や視点を持つ方々とともに未来を描ける組織になりつつあります。

気候変動は今も進行し、世界情勢にも厳しさが増しています。このように楽観できない現実にしっかりと目を向けながらも、それでも私たちは、コミュニティの力を信じています。自然を愛する人たちが立場を越えてつながることで、地域が変わり、産業が変わり、社会も変わっていく。その可能性を信じながら、この一年もみなさまとともに歩んでいきたいと思います。



photo. Yuta Nakamura

MISSION

アウトドア アクティビティに情熱を注ぎ、
そのフィールドやライフスタイルを気候変動から守るために
行動する仲間たちの力となる。

VISION

私たちの愛するフィールドやライフスタイルを、気候危機から
守るための「選択と行動」が、アウトドアコミュニティの
スタンダードになっている。

- 身近なコミュニティと協働しながら社会づくりに積極的に関わることで、「社会の仕組み」に変化をもたらす力となっている
- スキー場やスノータウンが、脱炭素社会の目指すべき姿を体現している
- アウトドアコミュニティは気候危機の解決を後押しするムーブメントとして大きな影響力を持ち、国の重要な気候変動対策やその決定プロセスに貢献している

OUR COMMUNITY

2019年2月から本格始動したPOW JAPANの活動は、2025年度の冬シーズンで丸7年となりました。ものすごいスピードとパワーで、活動の量も種類も広がりを見せています。その全ての原動力が、自然を愛するアウトドアコミュニティの力です。「冬を守る」に賛同し、活動をフォローし、希望を携えて、信頼とリスペクトを持ち合いながら、共にアクションを起こしてくださるコミュニティの皆さまの存在が、ムーブメントを力強いものに押し上げてくれています。心より感謝申し上げます。

パートナー企業

56

社

アンバサダー

25

人

POW CREW

283

人

SRA加盟スキー場

46

スキー場

POWチケット導入スキー場

11

スキー場

ショッププログラム

133

店

SNSフォロワー

1.9

万人

のべ寄付者

3.1

千人

NEW AMBASSADOR

「冬を守る」ための活動をリードし、自らフィールドでの日々の実践を通じて体現する存在が、POW JAPANのアンバサダーたちです。2025年度には、心強いお2人がジョインしました。

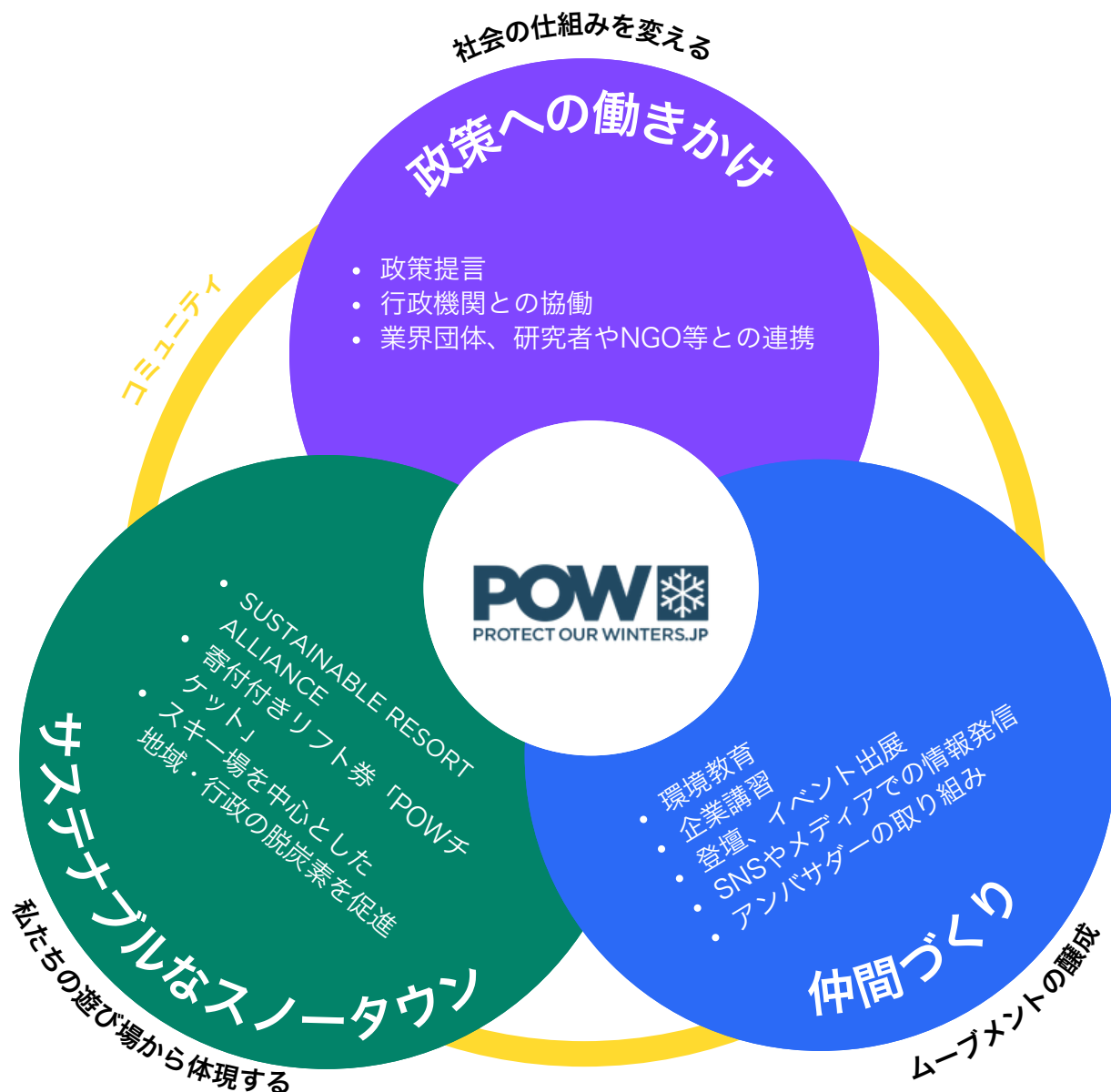


NEW SRA MEMBER

サステナブルな経営を推進するスキー場が加盟する「サステナブル・リゾート・アライアンス（SRA）」に、新しいスキー場が増えました。



活動の 3つの柱



「気候変動を解決できる社会」をつくるためには、個々人の行動変容だけではなく、「社会の仕組み」が変わる必要があります。社会の方向性を決定する「政策」に働きかけるためには、それを求める多くの声が必要です。声を合わせ、力を合わせ、ムーブメントを醸成しながら、私たちの遊び場であるスキー場やスノータウンのあり方から変化を体现していくことで、その機運を高めることができます。**3つの軸に基づくPOW JAPANの活動は有機的に繋がっていて、その積み重ねが「冬を守る」活動をよりパワフルにし、そしてより大きなインパクトを生み出してきました。**

次のページからはそれぞれの活動の軸に基づいて、2025年度のPOW JAPANの活動を振り返ります。



「大雪郡上2026」ライティングセッションにて、新規アンバサダーに加盟した旭立太とともに。

Photo: Tetsuya Matsukawa

仲間づくり

小さな対話や出会いから、 大きなうねりをうむ

「1人の100歩より、100人の1歩」

想いが集まった時の力強さを信じて、滑り手たち、そして自然を愛する仲間たちが集まる様々な機会に、北は北海道から南は関西まで、たくさん参加させていただきました。POWからは雪や冬の変化と気候変動との繋がりをお話したり、それぞれのフィールドで活動する方々との座談会や対話などを行いました。



関西気候井戸端会議
(大阪)



POW CREWトークイベント
(滋賀)



カーニバル湘南
(神奈川)



Harvest Park
(神奈川)



滋賀大学サステナWEEK
(滋賀)



ローカルコーヒーフェス浜松
(静岡)



衣食遊マーケット & SNOWDAY
(京都)



シルクスクリーンワークショップ
(大阪)



南会津アウトドアミーティング
(福島)

コミュニティをリードする

アンバサダーの活動

冬を守る取り組みを様々な形で実践し、まわりを巻き込みながらパワフルに進めている、POWアンバサダーの活動。そのうちの一部をご紹介します。



アンバサダーの橋本通代さんが、仲間たちと共に、軽井沢で気候マーチ「March for the Day 2025」を開催。3年目となる今年は、思いのこもった376枚のプラカードが集まり、手作りの横断幕やバルーンを手手に、総勢60名でマーチ。メディアにも多く取り上げられ、軽井沢から、自分ごとのメッセージとして、気候変動について声を上げる機会となりました。



アンバサダーの丸山春菜さんが主催する「HARMONIZE」は、「次世代のこどもたちに「雪」を残すため、共に楽しみ、共に未来へ想いを巡らせよう」がテーマ。“調和”という名前の通り、赤ちゃんから大人まで楽しめる温かいイベントとなりました。「PV-Green」の証書購入を通して、イベント当日に使用するリフト電力の再生エネルギーへの切り替えを実現。



アンバサダーの五明淳さん、POW JAPAN代表理事小松吾郎が、雪板づくりワークショップを開催。日本の森で育った木から自分でつくる世界に一つの雪板は、雪の上で遊ぶ純粋な楽しさを教えてくれます。トークセッションでは、自然と共にある生活について、参加者と対話が深まりました。



アンバサダーの大池拓磨さんが開催する「ちゃんめろフリーライド」。雪があるからこそ競技が成り立ち、人が集い、カルチャーが生まれていることを深く認識し、環境への配慮、資源の適正管理、次世代へとフィールドを引き継ぐための行動を実践しています。今シーズンは、最もサステナブルな人を称える「サステナ賞」が新設されました。



アンバサダーの佐々木玄さんが、フリーライドの大会であるPOWDER FREERIDE 2026にて、POWトークを実施。大会発起人の兒玉毅さんによる北海道の雪の恵みについてのお話からバトンを受け、POWの経緯やこれまでの取り組み、最後はジャンル・シーズンを問わず、自然を楽しみ、自然を守ろうというメッセージを来場者に伝えました。

全国のスノータウンへ

そしてスノータウンとともに

全国のスノータウンや、滑り手が集まるイベントへ。ブース出展やトークセッション、ワークショップをさせていただいたり、「自分たちの遊び場は、自分たちで守る」ということを、ゲレンデに集まるゲストとともに考える機会を一緒に考え、つくりあげました。はじめての出会いや挑戦となるイベントがあれば、毎年恒例の機会もあり、回を重ねるごとに取り組みが変化し、深まっていく過程を共にでき、嬉しく、心強い気持ちです。



シーズンに向けてリフトチケットを求める滑り手で盛り上がる神田スポーツ祭りに、パートナー企業とテントを並べて出展。今年は**POWアンバサダーの中島力さんと鈴木彩乃さん**による、SRAに加盟する舞子スノーリゾート、エイブル白馬五竜、ホワイトワールド尾瀬岩鞍、戸隠スキー場とステージトークも。各スキー場で実施されているサステナブルな取り組みや効果を伝えてくれ、来場者の関心呼びました。



北海道で開催される**LOVE SNOW HOKKAIDO**に**POW**として初出展し、北海道のスキー場・滑り手の皆さんとお話する機会を得ることができました。ステージトークでは、THE NORTH FACEアスリートのスキーヤー川口徹さんとセッション。本イベントをきっかけに、大雪山層雲峡 黒岳スキー場のSRA加盟が決まりました。



昨年始動した「**大雪郡上**」が、高鷲スノーパーク・ダイナランド・鷲ヶ岳スキー場の3会場で規模を拡大して今年も開催。**3日間全施設を100%再生可能エネルギーで営業**。POWはブース出展やライディングセッションを実施。トークセッションでは、アンバサダーの旭立太さんや、スキー場支配人らが登壇し、「100年先も郡上に雪山を残すため」のビジョンを参加者と共有しました。



太陽光で動くロープトリーフトに乗り、最高の地形を滑り尽くす3日間、**DRREAM SESSION 2026 with FUTURE LAB.** にブース出展。今年で6回目を迎える素晴らしい取り組みの可能性、これまでとこれからを伝える動画を共有しました。POWブースに必要な電力も太陽光でまかなう小さな“実験”にもチャレンジ。

 [映像を見る](https://youtu.be/zd3YBB7oN_A?si=YL9TUrUznBWO591f)

https://youtu.be/zd3YBB7oN_A?si=YL9TUrUznBWO591f



野沢温泉スキー場のブナ林。保水され、流れる沢水で発電している。

Photo: ATSURAERU

サステナブルなスノータウン

POW 
PROTECTOURWINTERS.JP

サステナブル・リゾート・アライアンス

全国46のスキー場に広がる



雪不足による営業日数の短縮など、気候変動の影響を直接的に受けるのがスキー場です。私たちの遊び場であるスキー場がこれからも持続可能であるために、スキーヤーやスノーボーダーとともに、サステナビリティや脱炭素に取り組むスキー場のプラットフォームである「サステナブル・リゾート・アライアンス（SRA）」。2023年12月に16スキー場からはじまったSRAは、発足から2年半で、北海道から関西まで全国11都道府県・46スキー場へと拡大しました。

寄付付きリフト券「POWチケット」の導入も進み、集まった寄付金や応援の声を追い風に、それぞれのスキー場でのサステナブルな取り組みが進んでいます。



SRA加盟スキー場一覧

YAMAGATA

湯殿山スキー場
Asahi 自然観スノーパーク
最上町赤倉温泉スキー場 ●

NIIGATA

ニノックス スノーパーク ●●
糸魚川シーサイドパレーススキー場 ●
池の平温泉アルペンブリックススキー場 ●
キュービットパレイ ●●
ムイカスノーリゾート ●●
舞子スノーリゾート ●●
湯沢中里スノーリゾート ●●

GIFU

ひるがの高原スキー場
高鷲スノーパーク
ダイナランド
ホワイトピアたかす
鷲ヶ岳スキー場

*2026年8月現在

NAGANO

戸隠スキー場 ●●
高峰マウンテンパーク
戸狩温泉スキー場
斑尾高原スキー場
蓼科東急スキー場 ●
白樺高原国際スキー場
しらかば2in1
御嶽スキー場
木曽福島スキー場
白馬岩岳スノーフィールド ●
白馬八方尾根スキー場 ●●
エイブル白馬五竜 ●●
野沢温泉スキー場 ●●
タングラムスキーサーカス

FUKUI

スキージャム勝山

HYOGO

万場スキー場
氷ノ山国際スキー場
おじろスキー場
ハチ・ハチ北スキー場

HOKKAIDO

サップロティネ
札幌藻岩山スキー場
名寄ビヤシリススキー場 ●●
ニセコ モイワ スキーリゾート
ニセコ東急 グラン・ヒラフ ●
大雪山層雲峡・黒岳ロープウェイ&リフト

IWATE

霧ヶ峰温泉スキー場

MIYAGI

みやぎ蔵王えぼしリゾート
みやぎ蔵王七ヶ宿スキー場 ●

GUNMA

たんばらスキーパーク ●●
ホワイトワールド尾瀬岩鞍
かたしな高原スキー場 ●
オグナほたかスキー場

TOCHIGI

ハンターマウンテン塩原 ●

● リフト券購入がスキー場の「ゼロカーボンやサステナブルな取り組み」の支援につながる「POWチケット」を導入しています。

● スキー場で利用する電力を再生可能エネルギー由来の電力を導入しています（導入比率は各スキー場により異なります）。



「POWチケット」を活用した

スキー場のサステナブルな取り組み



「POWチケット」とは、いつものリフト券購入時に、スキー場への寄付を選択できる仕組み。寄付金の全額が、各スキー場のゼロカーボンやサステナブルな取り組みに使われ、寄付金の使途、集まった寄付額と成果は開示されます。2025-26シーズンには、全国11スキー場でPOWチケットが導入され、**のべ1,726人のスキーヤー・スノーボーダーから、1,312,900円の寄付金**が集まりました。

導入スキー場では、電力の再エネ切り替えや、照明のLED化、森林整備や生ゴミ処理機の運用などの取り組みを進めています。

導入スキー場	ドネーションの使用用途
名寄ピヤシリススキー場	第1ペアリフトの2025年12月分の使用電力を再エネ電力へ切り替え、スキー場全体のCO2排出量の約6%相当を削減
網張温泉スキー場	「網張再エネ100チャレンジ」を開催し、2026年1月12日のスキー場営業を実質再エネ電力100%化
かたしな高原スキー場	寄付金総額と同額をスキー場が負担し、希望するゲストを対象にコンポストバッグを配布
白馬八方尾根スキー場	森林整備を通じた生物多様性の保全や、間伐材を利用してゲストが休めるベンチを制作
エイブル白馬五竜	一般家庭約50世帯分の年間生ごみ排出量に相当する量を、ダイジェスターで処理しCO2を削減
舞子スノーリゾート	舞子ゴンドラ冬季使用電力の実質再エネ100%化
ムイカスノーリゾート	第1・第2ペアリフトの冬季電気使用量の実質再エネ100%化とセンターロッジ内照明のLED化
湯沢中里スノーリゾート	スキーセンターの冬季電気使用量の実質再エネ50%化
キュービットバレイ	スキーセンター内の照明をLEDビーム球・LED蛍光灯へ更新
ニノックススノーパーク	ナイター照明電気使用量の実質再エネ100%化とナイター照明のLED化
戸隠スキー場	越水第4高速ペアリフト・越水第5ペアリフトを再エネ電力に切り替え、スキー場全体の電力使用量の40%相当の再エネ化



多様な取り組みを 知り・後押しする



サステナブルなスキー場経営を目指すSRA加盟スキー場では、再エネへの切り替えをはじめ、生物多様性保全や、食の選択肢の提供、相乗りの促進など、多様な取り組みが行われています。これらを滑り手に紹介し、応援の声を集める投票アクションを実施しました。取り上げたのは以下の8種類の取り組みです。シーズン中に全10箇所のスキー場で実施し、1110人の方に参加いただきました。



ゲレンデ内の 水車で発電



使う電気を自分たちで作る

再エネ100%電力 メニューを選択



CO2を出さない電力を使う

ビーガンメニュー の提供



地球への負担が少ない食事を選ぶ

ゴミが循環する仕組み



生ゴミを堆肥化し、麓の畑で使う

相乗りの促進



車移動によるCO2を減らす

生物多様性の 保全・回復



スキー場で自然を育む

寄付付きPOW チケットの導入



滑り手とスキー場がともに冬を守る

働くみんなで 気候変動を学ぶ



スタッフ1人ひとりが取り組みの主役



アウトドアコミュニティ・

パートナーとの連携



yukiyama 「RIDE FOR GOOD」

パートナーでもあるyukiyamaにより、「滑るたび、未来にいいこと」を合言葉に、RIDE FOR GOODキャンペーンが開催されました。yukiyamaアプリにチェックインすると、滑走距離1kmあたり0.03円がSRA加盟スキー場のサステナブルな取り組みに寄付される仕組み。¥1,201,700の寄付が集まりました。



Patagonia 「Worn Wear Tour」

ウェアの修理をしながらスキー場を巡る、Patagonia Worn Wear Snow Repair Tourのツアー先として、SRA加盟スキー場を選んでいただきました。訪問先は全部で7箇所。スキー場に取り組んでほしい取り組みへの投票アクションも同時実施し、多くの方に立ち寄っていただきました。



アウトドアブランドでのSRA展示

BURTON、THE NORTH FACE、Patagonia、UPLNDなどのアウトドアブランド店舗で、SRAを紹介する展示を実施。ストアスタッフの方々から、いらしたお客様にSRA加盟スキー場の取り組みをご紹介いただきました。



POW Taiwanでのイベントと台湾でのSRA展示

台湾のスキーヤー・スノーボーダーにとって、冬の渡航先として日本のスノータウンが定番です。POW TaiwanでPOW JAPANとSRAの活動を紹介。台湾国内の10のアウトドアブランドで、SRAのポスター展示と紹介を実施いただきました。

GOOD RIDE, GOOD FUTURE

スキー場の想いと努力を伝える



これからもスキー場が、遊び場が続くために、それぞれのスキー場で多様な取り組みが行われています。その裏側には、地域の滑り手からの応援や、スキー場スタッフの努力がありました。知る機会の少ないそうした想いや取り組みを、2025-26シーズンは取材しました。

北海道で初めてPOWチケットを導入した 名寄ピヤシリスキー場

パウダーにファンが多い名寄の魅力と、気候変動による危機感を、アンバサダーの鈴木彩乃さん・中島力さんが聞きました。

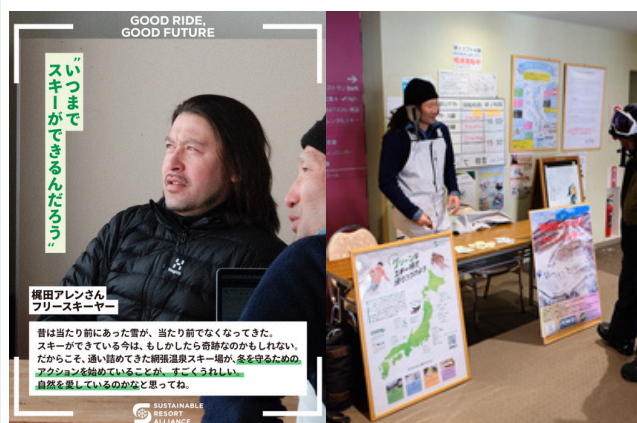


映像を見る

<https://www.instagram.com/reel/D53kkwJWZ2/>

「再エネ100チャレンジデー」を初開催した 網張温泉スキー場

地元に愛される網張が、どのような思いで環境に向き合っているのか、支配人鎌尾宗慶さんと、フリースキヤーの梶田アレンさんに聞きました。



詳細を見る

https://www.instagram.com/p/DUINuJYE7_x/

滑り手からの後押しでSRA加盟へ進んだ みやぎ蔵王えぼしスキー場

ゴミの分別やウェアのメンテナンス講習などが進むえぼし。その後押しになった、地元の滑り手からの応援の声や、取り組みを紹介しました。



詳細を見る

<https://www.instagram.com/p/DVcn1aYE8C7/>

スキー場内を流れる沢水で電気を生み出す 野沢温泉スキー場

「循環の中で暮らす」という感覚が当たり前に根付く野沢温泉村の、地域エネルギーへの取り組みをアンバサダーの河野健児さんと共に聞きました。



映像を見る

https://www.instagram.com/reel/DV1LxNaju_M/



POWアンバサダーの大池拓磨、代表理事小松吾郎と共に藤田ひかる立候補予定者（当時）へフィールドの声を届ける。

政策への働きかけ

政策提言が

法案に反映



スポーツ基本法に「気候の変動」はじめて明記

2025年度は、スポーツ政策に気候変動対策を明確に位置づけるべく、提言活動に力を入れました。6月には、スポーツ基本法が14年ぶりに大幅改正され、「**気候の変動への対応**」が初めて法文に明記されました。POW JAPANも、アスリートやスポーツ団体とともに、この規定の法文への明記を求めて、政策決定者と対話を重ねてきました。さらに、次期スポーツ基本計画において、スポーツ分野における具体的かつ実効性のある気候変動対策が盛り込まれるよう、提言を続けています。

観光庁のスノーリゾート事業、最終報告書に『環境に配慮した取組の推進』を明記



8月には、杉尾ひでや参議院議員のご協力のもと観光庁を訪問し、「**国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業**」への要望書を提出しました。要望では、①脱炭素施策を明確に位置づけること、②事業要件にサステナビリティの観点を加えることを提案しました。「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進に向けた検討委員会」にはPOW JAPANアンバサダーの小野塚彩那さんも参画し、政策形成の場で連携を進めました。提言と呼応するように、委員会においても「雪が少なくなっている」現状への指摘や、地域のために雪を守っていく必要性が言及されました。



検討委員 小野塚彩那さんコメント

雪がなければ成り立たないスポーツだからこそ、気候変動対策に真摯に向き合う必要があります。集客中心だった議論から、回を重ねる中で多くの委員と危機感を共有し、最終的に環境配慮の視点が盛り込まれました。インバウンド対応の一方で、地域の方々や国内の滑り手を大切に作る視点も不可欠です。リゾートが主体となり地域と共に未来を創る。今、日本のスキー場は大きな転換期にあると感じています。



東急リゾート&ステイ株式会社コメント

スノーリゾートを通じお客様に自然の魅力を提供しています。雪山の恵みと共に生きる立場として、次世代へ豊かな雪山を残すべく、使用電力100%再エネ切替えや、間伐・植樹を通じた森林および生態系の保全等、脱炭素社会・循環型社会・生物多様性実現を目指した取組みに力を入れています。環境に配慮した脱炭素施策等の重要性が広く認知されることで、持続可能なリゾート運営にも繋がることを期待します。

こうした現場からの声や、スキー場の後押しもあり、2026年3月に公表された「**国際競争力の高いスノーリゾート形成促進に向けた最終報告書**」では、「**環境に配慮した取組の推進**」が今後の方向性として新たに位置づけられ、再生可能エネルギーや小水力発電などの導入、スキー場駐車場にEV車の充電が可能な蓄電池の設置などが具体例として盛り込まれました。スノーコミュニティの声が、国の政策に反映された重要な一歩となりました。

VOICE FROM

THE OUTDOOR COMMUNITY

アウトドアコミュニティから声を届ける

国政選挙にあわせて、アウトドアコミュニティから気候変動対策を求める声を届けるアクションを行いました。

参議院議員選挙に向けては、「アウトドアコミュニティから声を届ける」をテーマに、候補者に市民が声を届けられる事例を紹介。合わせて、POW JAPANアンバサダーの佐藤亜耶さん、大池拓磨さん、中島力さん、橋本通代さんが、それぞれの地元の立候補予定者を訪問。雪山や自然のフィールド、日々の暮らしの中で感じている気候変動の影響を、現場の声として直接届けました。



衆議院議員選挙に際しては、POW JAPANアンバサダー11名が、それぞれの言葉で、投票を通じて未来に意思を示すことの大切さを発信しました。

一部をご紹介します。全てはPOW JAPANのInstagramからご覧いただけます。



冬を守ることは、フィールドでの行動だけでなく、社会の制度や政策に声を届けることでもあります。これらのアクションは、特定の候補者や政党を支持するものではありません。気候変動対策が公約や政策に組み込まれ、私たちの暮らしとフィールドを守る実効性ある取り組みにつながることを目指しています。

気候変動について話す

きっかけづくり



「暑すぎる夏を終わらせる日」

JCLP（日本気候リーダーズ・パートナーシップ）が、暑さを気候変動の問題としてとらえ直す社会的なきっかけづくりのために制定した「暑すぎる夏を終わらせる日」の記者会見に参加。POWもこの趣旨に賛同し、企業や気象予報士など様々な立場の皆さんとともに、早急な対策の必要性を訴え、スキー場や雪を取り巻く現状を伝えました。アウトドアコミュニティだからこそ伝えられる現場の声を社会へ届けることの重要性を改めて実感した取り組みとなりました。



OUR TEAM パートナー

GOLD PARTNER



SILVER PARTNER



BRONZE PARTNER



OUR TEAM — アンバサダー



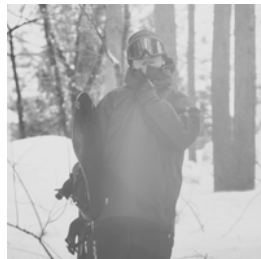
廣瀬航平
テレマークスキーヤー



旭立太
山岳ガイド BCガイド



清澤 恵美子
プロスキーヤー



岡本圭司
プロスノーボーダー



市川貴仁
プロスノーボーダー



佐々木玄
フリースキーヤー



中山悠也
プロスノーボーダー



丸山春菜
スノーボーダー



小西隆文
プロスノーボーダー



植木鹿一
フリーライドスキーヤー



小野塚彩那
プロスキーヤー



河野由貴子
スノーボーダー



河野健児
プロスキーヤー



佐藤亜耶
プロスノーボーダー



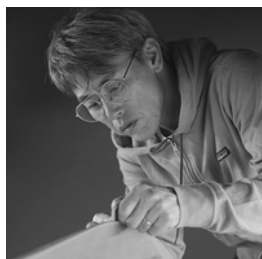
橋本通代
プロスノーボーダー



中島力
プロスキーヤー



鈴木彩乃
プロスキーヤー



玉井太郎
サーファー
スノーサーファー



佐々木大輔
国際山岳ガイド
ビッグマウンテンスキーヤー



中村陽子
プロスノーボーダー



山崎恵太
プロスノーボーダー



五明淳
雪板



鈴木新
ソウルスノーサーファー



大池拓磨
プロスキーヤー

OUR TEAM

— 理事会／事務局



Photo: Moe Kurita

理事会

小松吾郎	代表理事
小野塚 彩那	理事
片桐 幹雄	理事
倉田 保緒	理事
佐藤 亜耶	理事
澤 生道	理事
中島力	理事
楠田 真士	監事

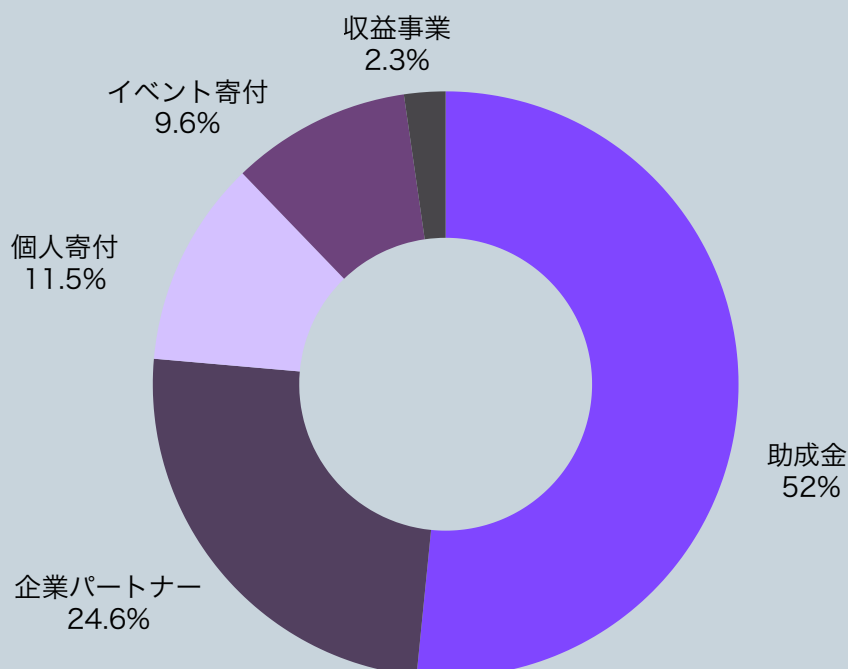
事務局

高田翔太郎	事務局長
脊戸柳武彦	副事務局長
小松由紀子	
横尾わなか	
武井七海	
島本聖史	
前田碧	
八木志菜	
三好雄介	

会計報告



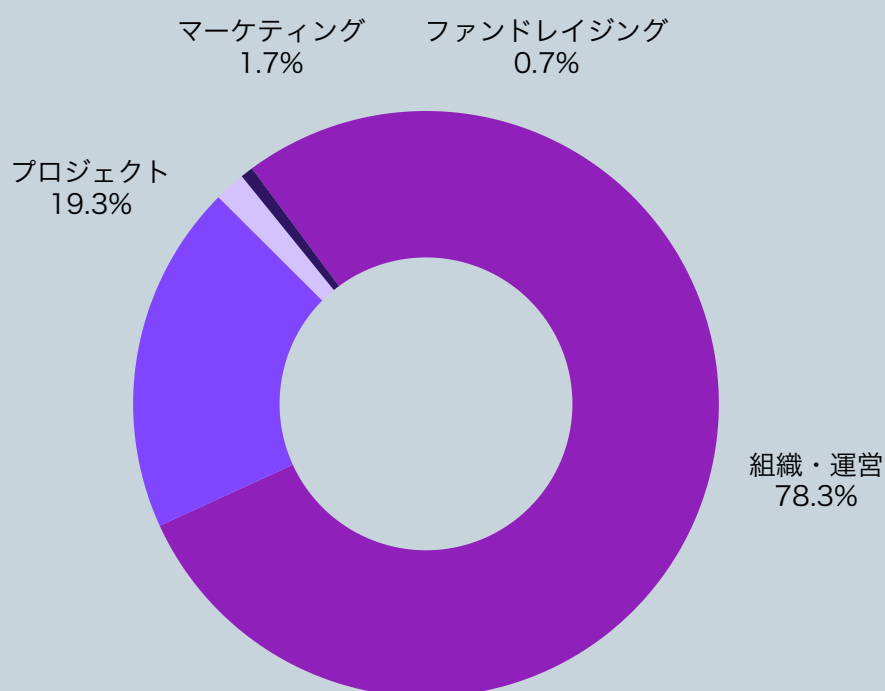
収入



収入 : 39,649,551円



支出



支出 : 37,686,734円



photo. Yuta Nakamura